

国際競争に対応する製糸技術のあり方

—生糸検査成績からみた海外生糸—

横浜生糸検査所検査第二部長 小 島 哲 雄

昭和49生糸年度に一元輸入措置を受けた外国産生糸のうち横神の生糸検査所で検査が行われたものは、これまでに637荷口ある。その品位検定証の写しの中から、比較的優秀な生糸を製造する3か国の検査織度21デニールのものを抜き取り、検査項目別に平均成績を求めたのが次の表である。比較、対照のために、昭和49年(暦年)、横神生糸検査所で輸出、国産生糸検査を行った検査織度21デニールの日本産生糸における項目別平均成績を下欄に掲げる。

項目別平均成績(検査織度21デニール)

	荷口数	織度偏差	糸むら二類	節	織度最大偏差	糸むら三類	再繰断	強力	伸度	総荷理	格	平均織度
	荷口	d	個	点	d	個	回	g/d	%			d
海外	461	1.32	4.8	96.63	3.5	0.2	6.2	4.09	20.8	やや劣.93	2A.14	20.80
国産	3633	1.22	7.4	96.01	3.5	0.2	4.3	4.05	19.7	やや劣.99	2A.32	20.49

上記の3か国生産、検査織度21デニールの受検生糸荷口のうち参考までに練減検査が行われたものは、これまでに385荷口あるが、その練減率の平均は21.11%であった。ちなみに昭和49生糸年度に、日本産生糸について横神生糸検査所で行われた練減検査成績調査(春蚕糸1000荷口、秋蚕糸1000荷口。検査織度21デニールに限られていない。)の結果に基づく練減率の平均は23.53%であったことを付け加えておく。
(昭和50年6月25日稿)